

## 最優秀者の選考結果（選考委員会の講評）

鹿島市民会館の設計候補者選定プロポーザルを実施した結果、6者の応募があり、選定委員会はそれらの技術提案に対して、以下のように選考を行いました。なお、プロポーザル方式ですので、単に優れた作品を選ぶコンペ方式とは異なり、設計に対する取り組み姿勢、敷地や要求機能に対する分析力、設計技術力などを総合的に判断して設計者を選定するものです。作品ではなく人を選定するものではありませんが、提案された技術的内容が全く無視されてしまうのは望ましくありません。その提案内容を踏まえつつ、短い設計期間で技術力を発揮していただき、関係者と議論を交わし、鹿島市民の将来に対してより優れた財産になるような市民会館の設計が行われることを期待しています。

まず、設計者の技術提案はいずれも優れた内容を有しており、特に上位3者は委員の評価が拮抗していました。それらの3者に共通していた点は、中川側（西側）のオープンスペースと緑を大事にしようという意識です。現在は裏側になってしまっていますが、それを裏と感じさせないようにするためにはどうしたらよいか、という基本計画では十分にできなかったことに対する分析・技術的検討・提案が行われていました。しかしながら、それから先の考え方について相違が見られ、最終的な評価が分かれてしまいました。順にそれらを講評します。

### 最優秀者 有限会社ナスカー級建築士事務所

大きなポイントは、限られた予算（場合によっては国の補助金の変動があることも考慮）のなかで、何を削減し、何を得ることができるか、ということに精力を使っていたことです。具体的には、ホールの現状の利活用を調べたなかで、本格的なオペラや演劇などの利用よりも、市民、中でも小中高校生の利用が最も多いということ把握し、フライズをなくすことによって、舞台と観客席とが一体となったホールの可能性を提案していました。もちろん、最終的にはフライズは必要ということになるかもしれませんが、しかし、舞台と観客席が一体となって周囲にも開放的になることによって、小中高校生と親とが場合によっては行ったり来たりするようなホールができるということは、高い評価を得ました。実際に、親は子供の間近で見たいと思うものですし、子供も親に喜んでもらおうとするものです。これは、エイブルだけでなく、近隣施設とも全く異なるものとして差別化できる可能性を持っています。また、そのような中で上にも上がりたくなる工夫が凝らされており、2階に設置することが提案されていた民俗資料館の活用もより自然になることと想定されます。外観については、鹿島らしい白漆喰壁を利用することが考えられていました。今後の課題としては、まだコンセプトualなところに留まっている外観、外構（人の動線処理や駐車場など）です。しかしながら、今後、市民を巻き込んで具体化させ、優れた市民会館になることが期待されます。

次点者 株式会社 新居千秋都市建築設計

優れたポイントは、ホールの第一人者として、優れたホール空間の設計技術力を見せてくれた点です。もっとも音響のよい高さや幅などのプロポーションを豊かな経験に基づいて導き出し、かつ、多様性を持たせるための可動席の可能性も含めた技術提案を行ってくれました。また、連続する三角屋根による鹿島市の街への考慮や、その中で2階をガラス窓でまとめて外部に開くことは、魅力的でした。その本格的なホールの姿には圧倒されるものがありました。一方、本当にここまでやって大丈夫なのだろうかという運営面・財政面での不安感があったのも事実です。また、2階に人を上げる工夫や中川沿いの車動線の処理が難しいと考えられました。それらの判断が悩ましく、1位の選定には至りませんでした。

3位 山下設計・入江正之DFI・堤正則設計共同企業体

優れたポイントは、鹿島市の都市的な環境や様々なイベントを分析しながら、技術提案をおこなっている点です。その点は、最もよく理解していると思われました。そのなかで渦巻き状の建物配置、「待ち」と呼ばれる多様な外部空間、「ボックス」と称される展示スペースを提案しているのはユニークでした。しかしながら、そのユニークさのなかで、分かりにくかった部分が残っていました。例えば、「ボックス」がどのように利用されていくのか、「待ち」のような場が本当に必要なのか、特に中川沿いの車の動線処理が難しいのではないのか、渦巻きに対して外観や建築構造がどのようにまとまるのか、という疑問が最後まで残りました。それらのことから、上位にはなったものの、最終候補者および次点に至りませんでした。

その他の技術提案も、各々、詳細に敷地を読み込んで提案に臨んでいただきました。エイブルと一体的に建築する提案、都市軸をつくっていく提案、駐車場を全面につくっていく提案がありました。残念ながら選定には至りませんでした。その熱意、技術には敬意を表し、感謝申し上げます、本プロポーザルの講評とさせていただきます。

新鹿島市民会館（仮称）設計候補者選考委員会 委員長 三島伸雄